

世界のクルーズ拠点を目指すマリーナベイ・クルーズセンター ～利便性と都市景観を生かしたクルーズ船誘致～

シンガポール事務所

近年、クルーズ船はより豪華で快適な旅となるよう、大型化する傾向にあります。シンガポールでは、昨年、海辺の開発エリアに大型客船専用のターミナル「マリーナベイ・クルーズセンター」がオープンしました。今回、視察する機会を得たため、その結果をご報告します。



大型客船が2隻停泊中のマリーナベイ・クルーズセンター

1 開発の経緯

近年クルーズ観光の需要が高まっていることに加え、クルーズ船が大型化し、既存のクルーズ船ターミナル「シンガポール・クルーズセンター」では高さ52メートルを超える大型客船が停泊できないことから、これに対応した新しいクルーズセンターを建設することになりました。クルーズ船は大型化することで豪華さや快適さを備え、一泊一万円前後といった手の届きやすい価格となってきたこと、アジア地域での所得水準が向上しクルーズ人気が高まってきたことから、シンガポールは主要なクルーズ拠点となることで相当の経済効果を見込んでいます。

2.利便性の高いロケーション

マリーナベイ・クルーズセンターは、今やシンガポール観光の新しいシンボルとなったマリーナベイ・サンズやシンガポール・フライヤー、昨年できた海辺の植物園、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイを臨むエリアにあります。クルーズ船が港に近づくとシンガポールを象徴するこうした光景が乗船客の期待を高めるとともに、到着後は主要な観光スポットにすぐにアクセスできる抜群のロケーションです。チャンギ空港へは車で20分、来年には地下鉄の駅も直結し、一番の繁華街であるオーチャードにも地下鉄一本で行けるようになることから（所要時間約20分）、一層利便性が高まることが予想されます。また、このクルーズセンターはシンガポール政府観光局が所有しており、現在開発中の周辺地域一帯も政府観光局が担っていることから、将来さらなる展開が見込まれます。



海側から見たイメージ(海岸線近くのマリーナ・バレッジから撮影)



マリーナベイ・クルーズセンター地図(HPより)

3.地理的強みを生かしたクルーズ誘致

マリーナベイ・クルーズセンターに寄港する船は、マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナムなどほとんどの近隣の東南アジア諸国からの来航があり、特にタイのプーケットやマレーシアのランカウィなどアジア各地のリゾート地に向かうものも多くなっています。昨年の開業以来、年間 100 隻以上の来航を見込んでいます。

4.チャンギ空港との連携によるクルーズ誘致

乗船客にはターミナルに着くと大型観光バス、タクシー、公共バス等様々な交通手段を使ってシンガポールを観光した後、同じ船で次の目的地へ向かう人の外に、シンガポールを観光した後、チャンギ空港から飛行機で次の目的地へ向かう人たちもいます。

マリーナベイ・クルーズセンターではチャンギ空港と連携したサービスも提供しており、クルーズセンター内でチェックインし、搭乗券を受け取ることができるようになっていきます。荷物は空港に直接輸送され、空港へは出発時刻の 45 分前までに到着すれば良いという利便性の高いサービスで国外からのクルーズ客誘致に有効な手段と思われる。



客船から降りてくる人々を待つ大型タクシー



大型バスでシンガポール市内観光へ

5.設備

マリーナベイ・クルーズセンターの総工費は5億ドルでターミナルには2つのバースを備えています。ターミナルは空港のような構造になっており、1階が到着階、2階が出発階、1階の到着階には案内所、2階の出発階には、両替所、コンビニエンスストア、公衆電話、ATM等があり、手荷物検査場より先には待合室、チェックインカウンター、出入国審査場、GST（消費税）払戻しカウンター、搭乗口等があります。待合室は中2階にもあり、無料のWifiが設置されています。クルーズ船のない時は結婚式や展示会等のイベントスペースとしても利用できます。

世界最大級の豪華客船が2隻まで同時に停泊可能、バースはターミナルを挟んで左右にあるため、内部は鏡のように対照的な作りになっており、チェックインカウンターが左右に設けられるなど、それぞれの乗船客が混ざり合うことのない構造になっています。

建物は「波」をイメージした立体的な外観で、船が岸に近づくにつれ様々に形を変えたように見える革新的なデザインになっています。

1階到着階 船から降りて次の目的地に向かう人々



2階出発階 手荷物検査のために並ぶ人々



【設備概要】

名称：Marina Bay Cruise Centre Singapore

所在地：マリーナベイの南西の外洋側

（住所：61 Marina Coastal Drive Singapore 018947）

正式オープン：2012年10月22日

総工費：5億ドル

ターミナルの広さ：2万8000平方メートル

駐車場：3万2000平方メートル バス停車可能台数25台

バース数：2 同時に2隻寄港可能

バース1 最大延長335メートル、喫水11.5メートル

バース2 最大延長360メートル、喫水11.3メートル

最大乗客数：6800人（2隻同時寄港時）

チェックインカウンター数：80 出入国審査カウンター数：40

運営：シンガポール政府観光局が所有し、運営はSATS-Creuers Cruise Service社。

当社はチャンギ空港を運営している SATS 社と国際的なクルーズ船の運営会社である Creuers del Port de Barcelona S.A.社との合併会社。

6.終わりに

世界では続々とクルーズ客船の大型化に対応したターミナルが計画され、開業しています。マリーナベイ・クルーズセンターを訪れて感じたことは、乗船客に旅の高揚感を演出するためには、クルーズ客船の寄港地が魅力的であることが極めて重要であるということです。船がターミナルに近づくにつれてクルーズ客船からはその街を象徴する観光スポットが一望できること、クルーズターミナルの建物のデザインが景観と一体となって雰囲気盛り上げていること、さらに、主要エリアへアクセスしやすいといった利便性も兼ね備えていることは大きな強みです。これから開発を考える際には、こうした観点からターミナルを魅力的なものとし、競争力をつけることがクルーズ誘致にとって重要な要素となるといえるでしょう。

(松田所長補佐 東京都派遣)

